

35周年記念誌では、ケルンに裏表紙を飾ってもらったものですが、次回からは協賛を得られない見込み。というのは、35期吉田氏がコージツに就職して以来、現役部員の足はそこへしか向かなくなってしまったからです。

物売るだけでなく、情報も技術も親切に付加してくれ、礼儀正しい彼は、中高年おばさんにも圧倒的人気を誇っています。

かつて、キスリングと革靴さもなくばキャラバンシューズ…程度の知識から進歩しないまま山を再開しようとした時、私は山道具店で立往生したものでした。身に染み込んだ幕営登山とワンデイハイクのギャップ、プラス、聞き慣れない新素材の品々、どう使いこなせるのかわからない便利商品の数々。あわてて山溪を買ってきて広げれば、よくわからないメーカーに、どこを比べればよいのか…これまたわからない。

店員に素直に聞けばよいものを…相手が当然のように「山の経験は？」とこちらの技術を量ろうとすれば…なまじワングルOBなばかりにうろたえ、しどろもどろになった自分がありました。あの時、吉田さんみたいなワングルOBがいてくれたら、私はもっと気楽に聞けて、もっと利口に快適に山を楽しんでいけたらと思う。

かくして迫った「原稿ちょーだーい」

今どきの山道具あれこれ

35期 吉田 稔

OB会の中では一番下っ端の者が、諸先輩方に向かってこのような原稿を書くことは非常におこがましいのですが、いつもお世話になっている舟田先輩から依頼されましたので、一店員という立場から、'96年現在の山の道具の傾向、売れ筋商品などについてご紹介させていただきます。

尚、商品名や素材等は年々変化していきますので、ここに挙げたものでも無くなってしま

可能性はありますし、又、メーカーに関してはコージツで扱っているものに偏らざるをえないこともお許し下さい。

<靴>

無雪期（6月～11月中旬）を中心に山へ行かれる人が大多数のため、一番よく出るのは、革+GORE-TEXの登山靴です。無雪期の中でも、7、8月の夏山を中心として、2、3回程度の山行をされる方には、ナイロン布+GORE-TEXの靴がよく出ます。以下、山行別に具体的な商品名を挙げていくと次のようになります。

*日帰り中心でなおかつ回数の少ない方には、無雪期に限っていえばナイロン+GORE-TEX。

例) キャラバン GK40 ㊦ 19,500 円

シリオ251GTX ㊦ 23,000 円

*日帰り中心でも毎週末山に行かれたり、小屋を利用した2、3泊程度の山行をされる方には、アッパー（一番外側の部分）と靴底の耐久性が必要になってきますので、革製、もしくは、革+GORE-TEX。このタイプはそんなに重くもなく、軽アイゼンも装着でき、夏の白馬などの雪渓、残雪期の山にも使用可能。

例) 革+GORE サイズ25.5

シリオ272GTX ㊦ 35,000 円 (約1450g)

シリオ267GTX(女性モデル) サイズ23.5
㊦ 34,000 円 (約1250g)

ザンバラフジャマGT サイズ40
㊦ 35,000 円 (約1330g)

革

ザンバラフジャマ サイズ40
㊦ 26,000 円 (約1440g)

*テントを持参する山行で、常に荷物が20kg以上、今だに現役と変わらずバリバリ山に登っていらっしゃる方、少々雪でも山に行かれる方には、昔ながらの重登山靴。革製で両足で2.0kg以上のもので、靴底も固くしっかりしたものがこれに該当。又、積雪期、山岳会に入会されて、冬・春合宿、遠征等に行かれるほどの方にはプラスチックブーツなども。

もちろんこれらの靴にはアイゼン装着可。ちなみに、今の現役が一年を通じて使用しているのが

ハンクグ ラングコップェル 両足

ⓧ 51,000円 (約2350g)

ハンクグ ビッツパリュー 両足

ⓧ 49,000円 (約2100g)

の2機種。それ以外では

ローバー アイガー 両足

ⓧ 43,000円 (約2100g)

マインドル スーパーマッターホーン

ⓧ 52,000円 (約2800g)

積雪期プラスチックブーツ

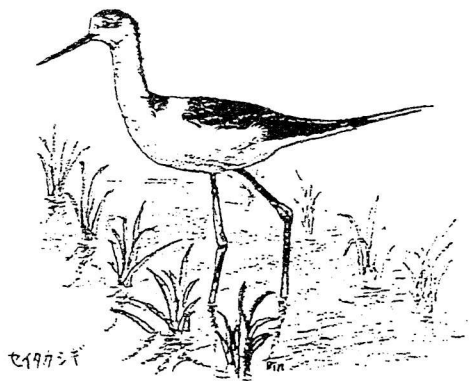
ローバー チベッタ 両足

ⓧ 46,000円 (約2300g)

以上が今時の靴です。ここにあげたのはあくまで一例であって、万人にとっていい靴というのはありません。山行別で分けてみた場合に、靴自体の性能で適していると思われるものです。一番の問題は、自分の足に合うかどうかです。必ず、前後サイズを含めた3足でサイズ合わせをすることが重要です。

さらにそれぞれの特徴を列記すれば以下のようになります。

- ・ナイロン布製--軽量、履き易い、防水性無し。
- ・ナイロン+GORE--軽量、履き易い。GOREが有効の期間は防水性があるが、GOREがだめになると水が漏る。
- ・革製・軽登山靴--履き慣らし、防水クリームを塗る手入れが必要。耐久性あり。
- ・革+GORE--履き慣らしが必要。GOREが有効でなくなっても、革登山靴と同様の手入れで利用できる。
- ・革製・重登山靴--十分な履き慣らしが必要。防水クリーム等の手入れが必要。耐久性はダントツ。防水性も高い。
- ・プラスチックブーツ--防水性は文句なし。5年以上たつと劣化がはじまり割れる可能性有り。



<ザック>

これは、ザックの背面長と背中の長さの合うものが良いでしょう。つまり、担ぎ易いものとなります。ザックの中では40 l以上の容量のものには背面長が調整できる機種もありますが、それ以外のものはある程度長さが決まっていますので、実際に背負ってみることが重要です。

容量に関しては、以下のようになります。

- ・20 l以下--日帰り、ハイキング程度。サブザックとしても使用可。
- ・20-30 l--日帰り。雨具、コンロといった一通りの装備を十分収納可。
- ・30-40 l--一年を通じてオールラウンドに使える容量。。コンロ、1-2人用のコップ、非常パック、ツェルト等。秋口からの防寒着、小さなシュラフも収納可。
- ・40-50 l--3泊以上の小屋泊まりをされる方等にお薦め。
- ・50 l以上--テントを持ての長期山行。パーティーを組んでの山行向き。

具体的なメーカー名を挙げれば、一般によく出るのは、ミレー、ロウアルパイン、オスプレイ、バイレス、ダックス、カリマー、ゼロポイント等です。

形状的には、アタックザックと呼ばれる縦型のものが主流になってきています。かつてワン

ゲルのシンボルであったキスリングは、残念ながら一年に一つ注文があるかどうかという状況です。その原因は、担いで快適に歩けるタイプのザックが豊富に出回っているからのように思われます。

<服装>

服装で特に気配りしていただきたいのが下着です。下着の素材が生死を分けた遭難例もあります。化学繊維の下着を使っていたのが、ベストです。お客様から「オーロンの〇〇ありますか?」と聞かれることもしばしばです。

ところが現在、オーロンを使用した下着類はほとんどないと言ってよいでしょう。それほどに新素材の開発が盛んで、今は、ダクロンQD、クールマックス、ウィックロン、ドラロン、秋冬ともなればクロロファイバーなどといった素材を用いたものが主流になっています。これらの素材でさえ、来年には新素材にとって替わられる可能性があるほどです。

以上の素材の共通点は、即乾性です。これらの素材名を記憶しなくても、登山用品店で「即乾性の素材を使った下着」という表現で、買い求めることができます。夏は快適ですし、冬は冬で温かい「すぐれもの」です。ちなみに、現役部員は、冬場はゼロポイントの下着を使用しています。

- ・夏用…ダクロンTシャツ（シェラデザイン、ダンロップ、ジャックウルフスキン等）
ウィックロンTシャツ（モンベル）
クールマックスTシャツ（ノースケープ等）
- ・秋冬用…ノースケープ、ゼロポイント・ジオラインシリーズ（モンベル）
ジャックウルフスキン等

上記の下着のみならず、服装すべてにおいて、登山とは切っても切れない汗に対しての工夫がなされています。汗は不快感を伴うだけでなく、もともとは体温調節で出されたものでありながらその後の放置が体温を奪い、疲労を増加させてしまいます。ですから、体の表面に出た汗を衣服の外へ外へと出すことが重要となり、即乾性の下着、シャツなどの中間着、GORE-TEXの雨

着という組み合わせが、快適かつ安全につながるということになります。

靴下もこういう素材を用いたものが多くなってきました。

- ・ローナー…これは耐久性といい、クッション性といい、お薦めの一足です。

中間着、防寒着としてはフリースウェアをお薦めします。フリースとは、現在は主に、ポリエステル起毛素材のことを意味します。フリースウェアは、軽くて保温力が高く、もちろん乾きも早く、メンテナンスも楽です。ただ、風は通しますので、風を遮断するGORE-TEX等の素材と重ね着することで、その弱点をカバーして下さい。フリースにも何種類もありますので、店頭で直接お確かめ下さい。（つい、いつもの口調が出てしまいました…）

<コンロ>

ワンゲル内では、コンロの代名詞とされているホエーブスが、生産中止となってから、3-4年がたちます。

現在よく出るのは、ガスカートリッジ式のコンロです。雪山の場合は、ガソリンコンロがよく出ます。

- ・ガスカートリッジ式…火力の安定を求めるなら、EPIのAPSA IIストーブ。これはガスを急速に気化させ、燃焼効率を高める機構がついているタイプ。軽量、コンパクトで、常に二人ぐらいでの使用であれば、プリムスのエクスカイザーEX-ULT-IA チタンバーナーがおすすめ。
- ・ガソリンコンロ…コールマンのアンレデットピークストーブ等は使い易い方です。コンロ好きな方には、MSR ウィスパーライト・インターナショナル等がなかなかいい味のコンロ。



<コップェル>

何種類もありますが、今夏によく売れたのはチタン製のものでした。容量的には2-3人ぐらゐのもの。軽さが一番の魅力です。食器や武器（スプーン、フォーク）もチタン製品はよく出ます。

<シュラフ>

化繊と羽毛の2種類に大別できます。

- ・化繊…モンベル、イスカといった所が売れ筋。化繊はメンテナンスが楽で、コストも低い。羽毛に比べるとコンパクト性に欠ける。
- ・羽毛…非常にコンパクト性に富むが、メンテナンスに手間がかかる。湿気を避けることが第一。イスカ、モンベル、マウンテンクイップメント等が売れ筋。

又、シュラフの性能をアップする道具に、シュラフカバー、マット等があります。

- ・シュラフカバー…GORE-TEXを用いたものがほとんど。
- ・マット…現在よく出ていて評価の高いものは、カスケードデザインのサーマレスト、ウルトラライトⅡ 3/4 (119cm)、ロング(180cm)。サーマレストは、広げてバルブを開けると中のウレタンが空気を吸収して自動的に膨らむ。肉厚もそこそこにあり、なかなか寝心地が良い。ウルトラライトⅡ 3/4の場合重量394gというのも魅力。

<テント>

今一番良く出るのは、2-3人用のテントです。テントも軽量、コンパクトという傾向にあります。

- ・アライテント エアライズ2
(本体+ポール+フライ 収納サイズ30×150cm
1.75kg ㊤ 44,000円)
- 他、マジックマウンテン、ダンロップ、モンベル等。

<トレッキングボール>

今年一番売れた商品と言えます。是非、先輩方にも使っていただきたいと思います。特に、ダブル（両手）で、下りに使っていただければ、その効果に驚かれるでしょう。

・レキ スーパーマカルーアンチショック等

㊤ 18,000円（ペア）

<その他>

冬に雪山を楽しむには、登山以外の方法もあります。例えば、クロスカントリースキーで医王山の林道を歩いてみる、テレマックススキーで雪山を歩き、深雪の中を滑り、一つのシュプールもない所を自由自在に滑る…というのも、非常におもしろいものです。

以上思いつくままに書いてみましたが、道具を文章だけで紹介するのは、非常に難しく、自分の表現力の不足が悔やまれます。何といても、実際に触り、比べていただくのが一番なのですが、多少とも皆様の道具選びの参考になれば幸いです。

世の中には、ここに挙げた商品の他にも、良いものは無数に存在します。

「新しい道具を毛嫌いせずに、自分の登山に採り入れていくのも、登山技術の一つだ」

と、中高年の登山学で一躍有名になった岩崎元郎さんも、著書の中で述べておられます。

皆様、道具に頼り過ぎることなく、道具を活かして山を楽しんで下さい。

（筆者は、コージツ高尾店

金沢市伏見台1-13-25 ☎0762-45-8033

に勤務）

